



内閣府
男女共同
参画局

女性に対する
暴力を
なくす運動

11月12日～25日



ひりど悩まず
まずは相談!

©西原理恵子

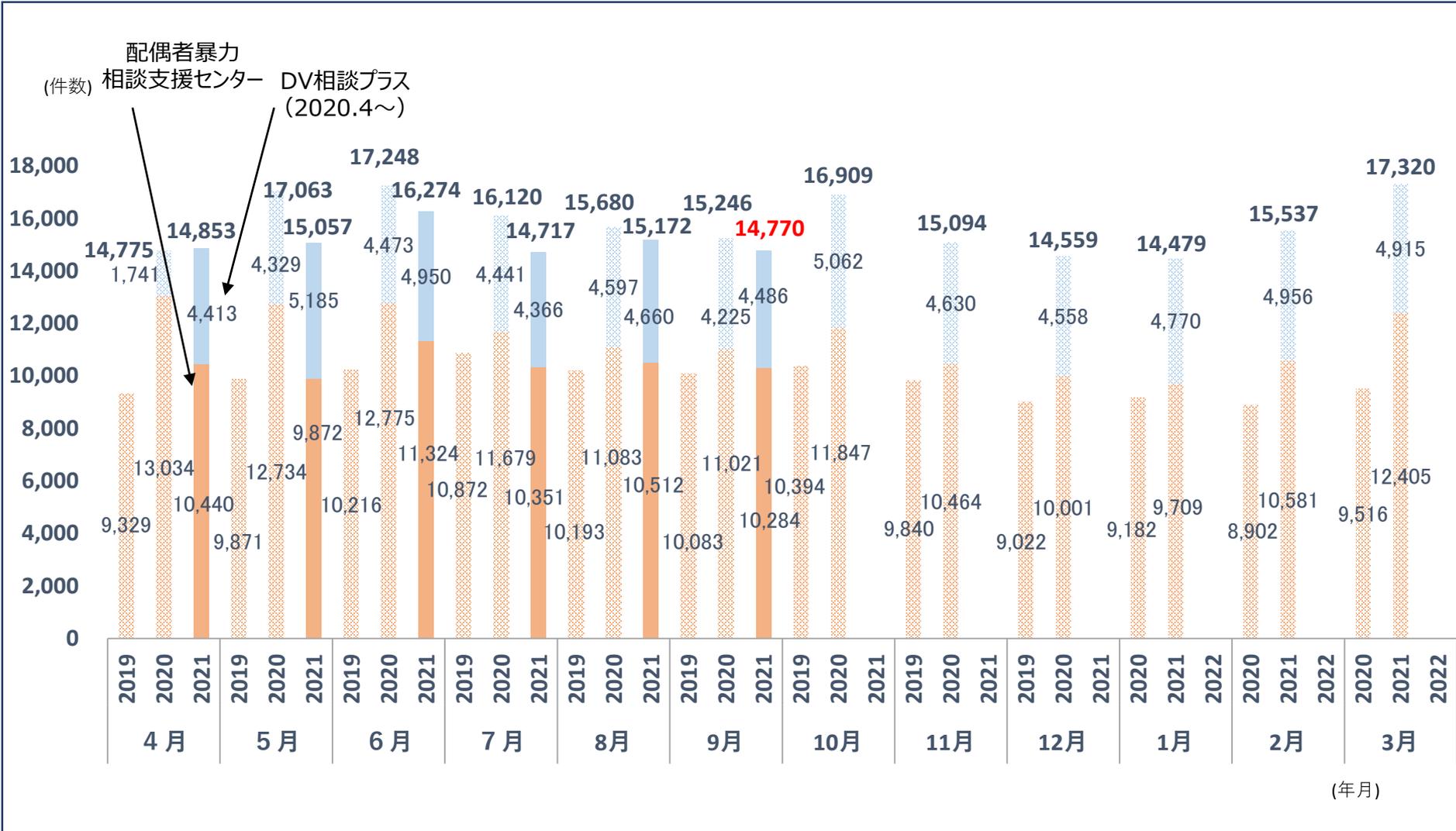
最近の女性に対する 暴力の根絶に向けた動きについて

令和3年12月
内閣府男女共同参画局

配偶者からの暴力(DV)

DV相談件数の推移

- ✓ DV相談件数の推移を見ると、2020年度の相談件数は、19万0,030件であり、2019年度の約1.6倍。
- ✓ 2021年9月の相談件数は、1万4,770件となっている。



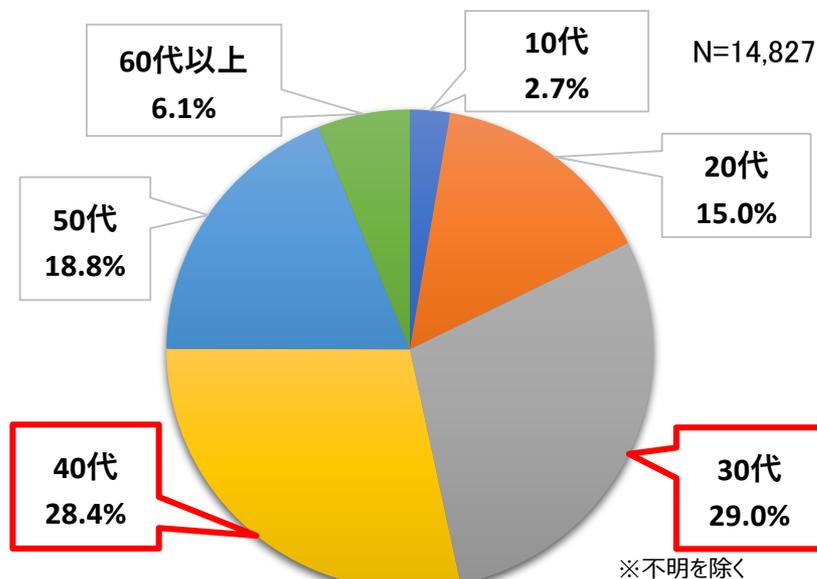
(出典)内閣府男女共同参画局調べ

※全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は、令和3年9月30日時点の暫定値

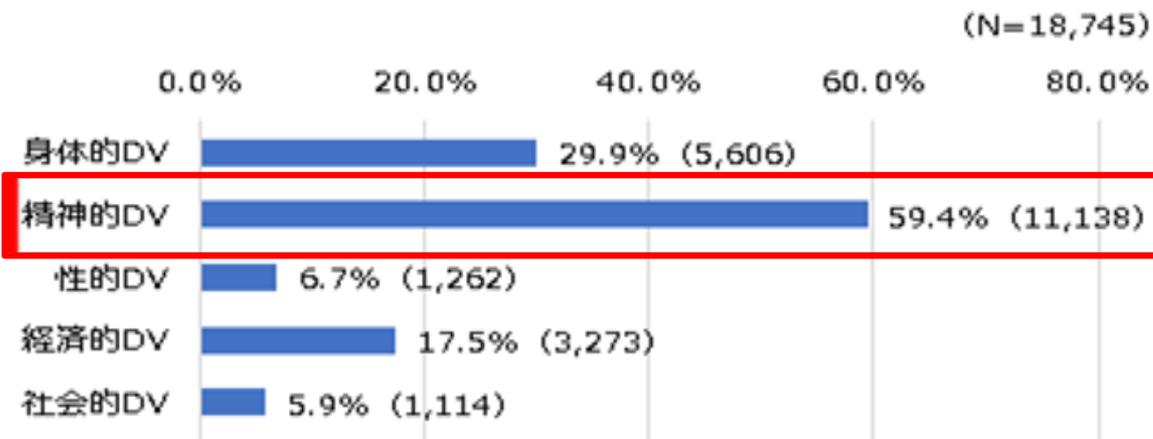
DV相談者の年齢・相談内容

相談者の年齢

30代～40代で全体の約6割を占める。

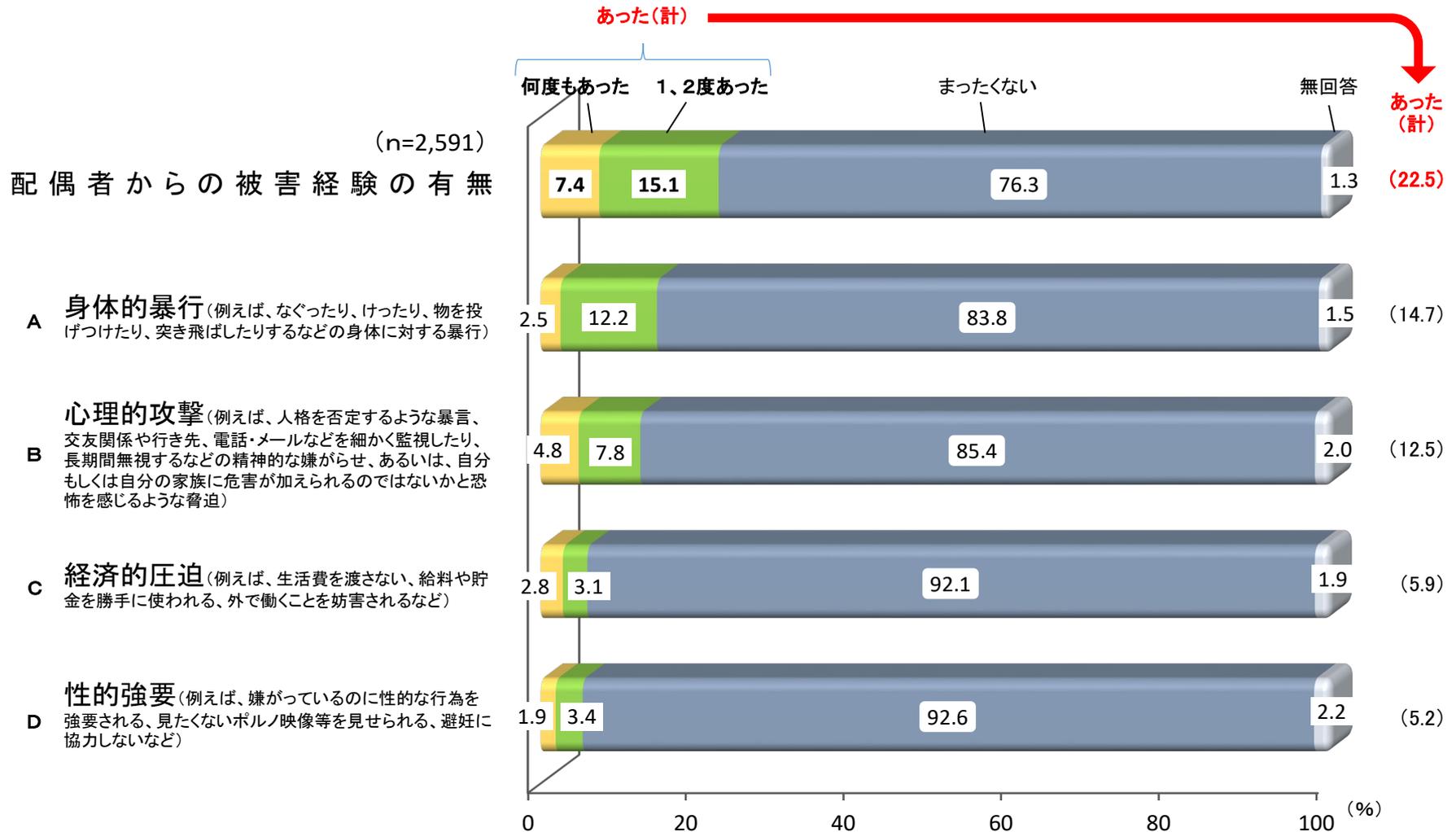


相談内容（複数回答）



配偶者からの暴力(DV)の被害経験

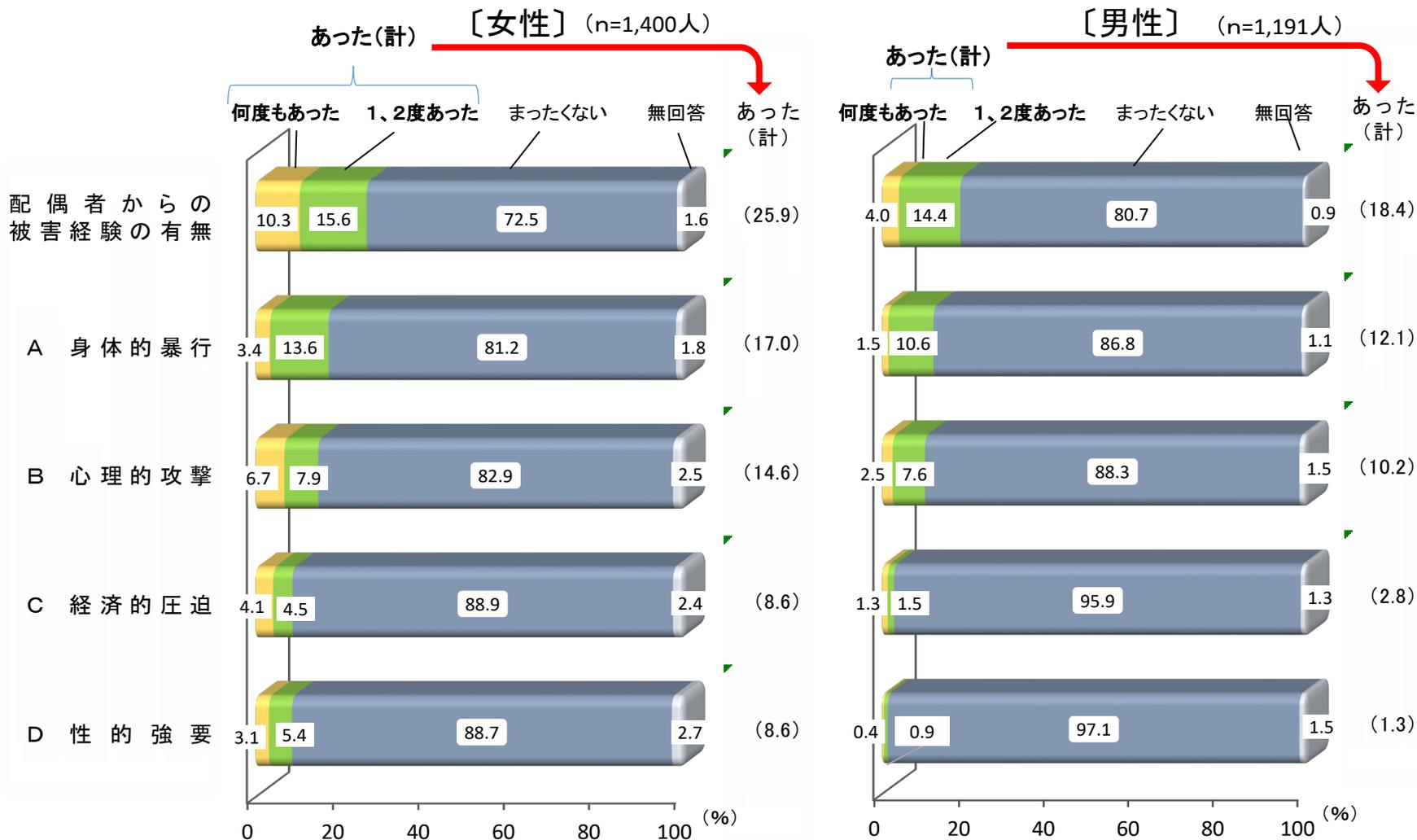
約4人に1人は配偶者から暴力を受けたことがある



資料出所:内閣府「男女間における暴力に関する調査」(令和3年3月公表)

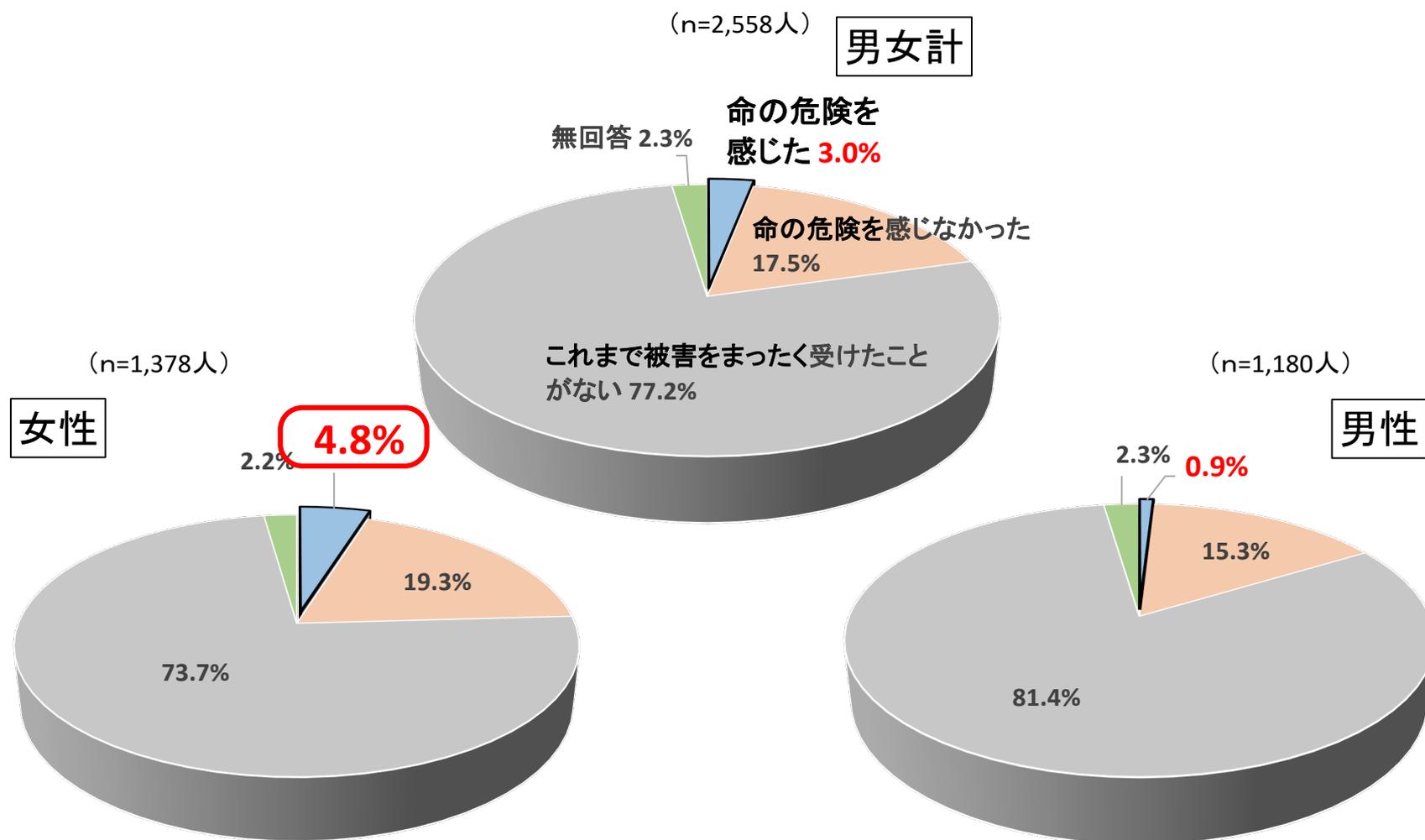
配偶者からの暴力の被害経験(男女別)

- ・暴力のいずれの行為も、女性の方が被害経験者の割合が高い
- ・女性の約4人に1人は被害経験があり、約10人に1人は何度も受けている



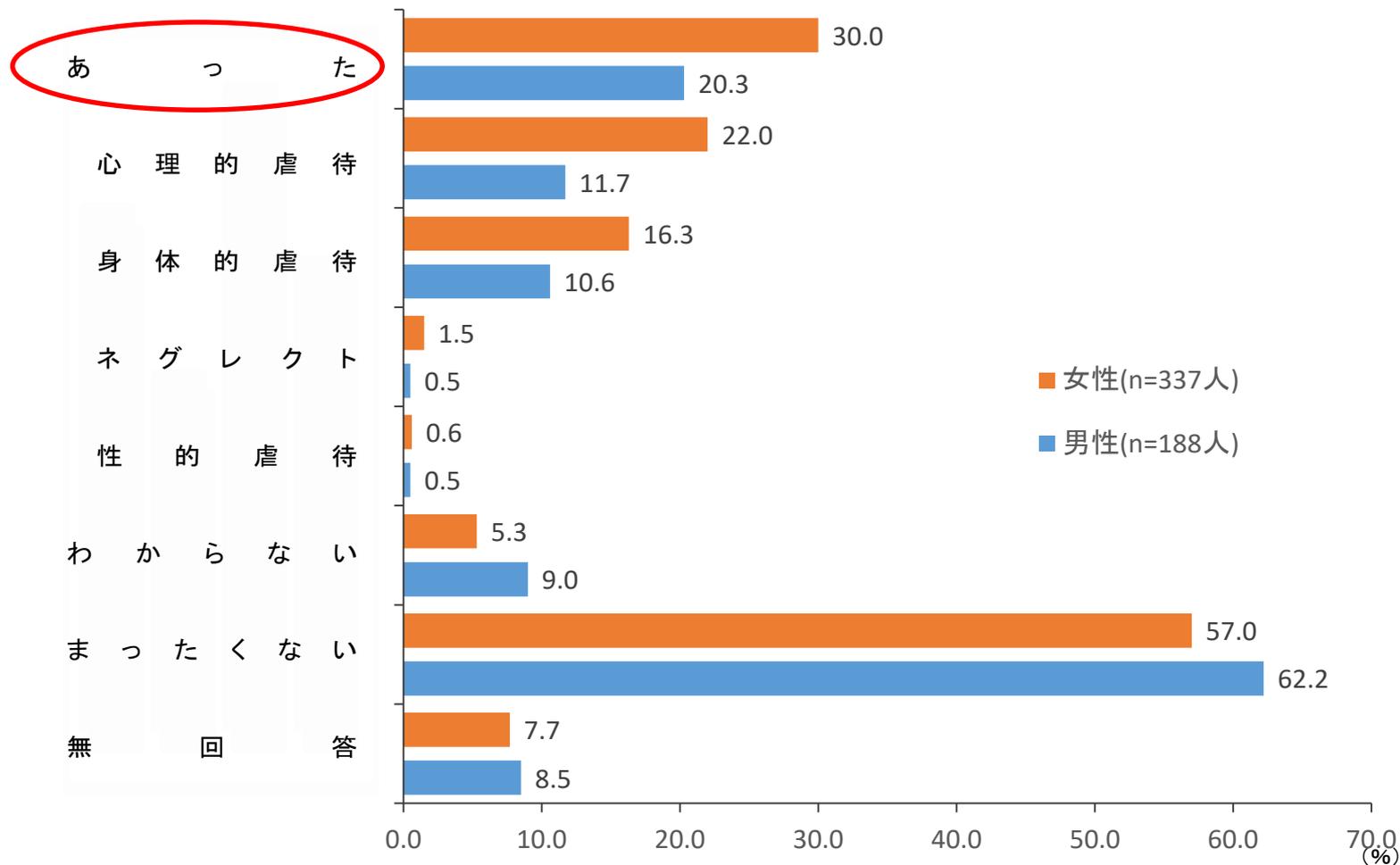
配偶者からの暴力被害により命の危険を感じた経験

女性(婚姻経験者)の約**21人に1人**が**命の危険を感じた**ことがある



配偶者による子供への被害経験(複数回答)

子供のいる被害女性の約3割が、子供への被害経験も認識

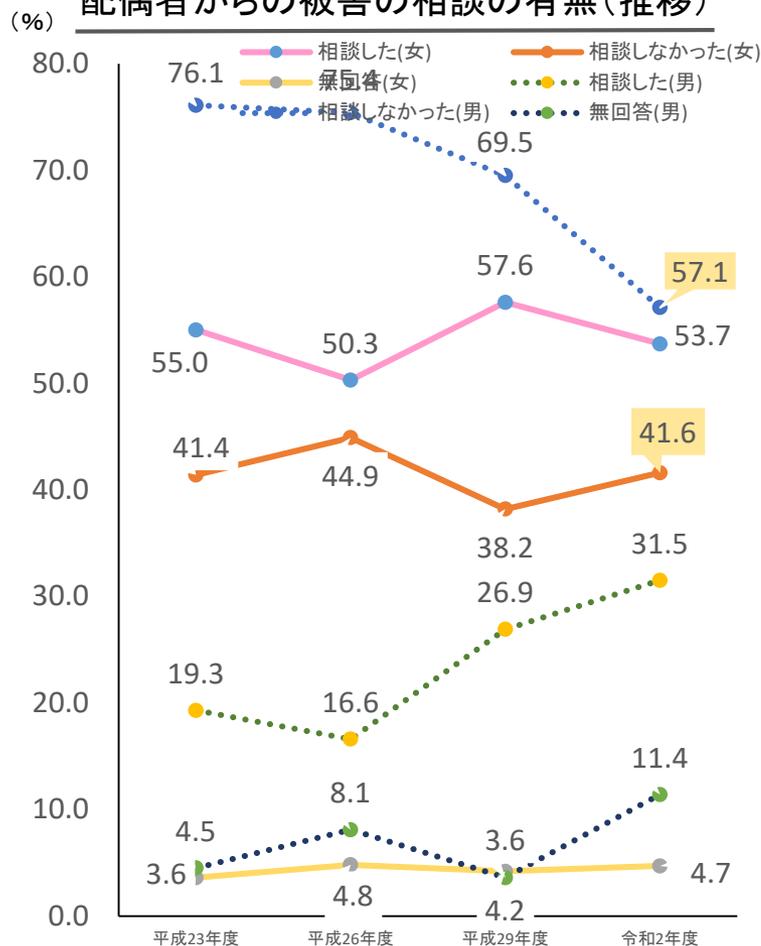


配偶者からの暴力被害の相談の有無、相談先

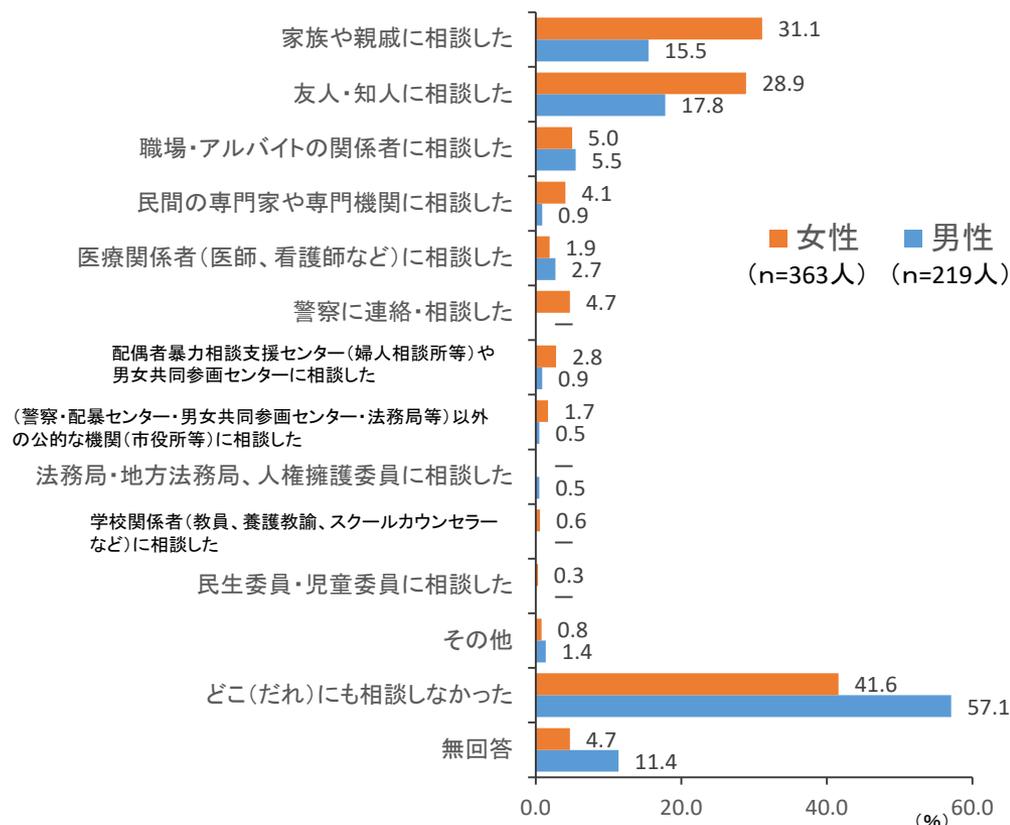
・女性の約4割、男性の約6割はどこ(誰)にも相談していない

・相談先の大多数は、家族・親戚、友人・知人

配偶者からの被害の相談の有無(推移)

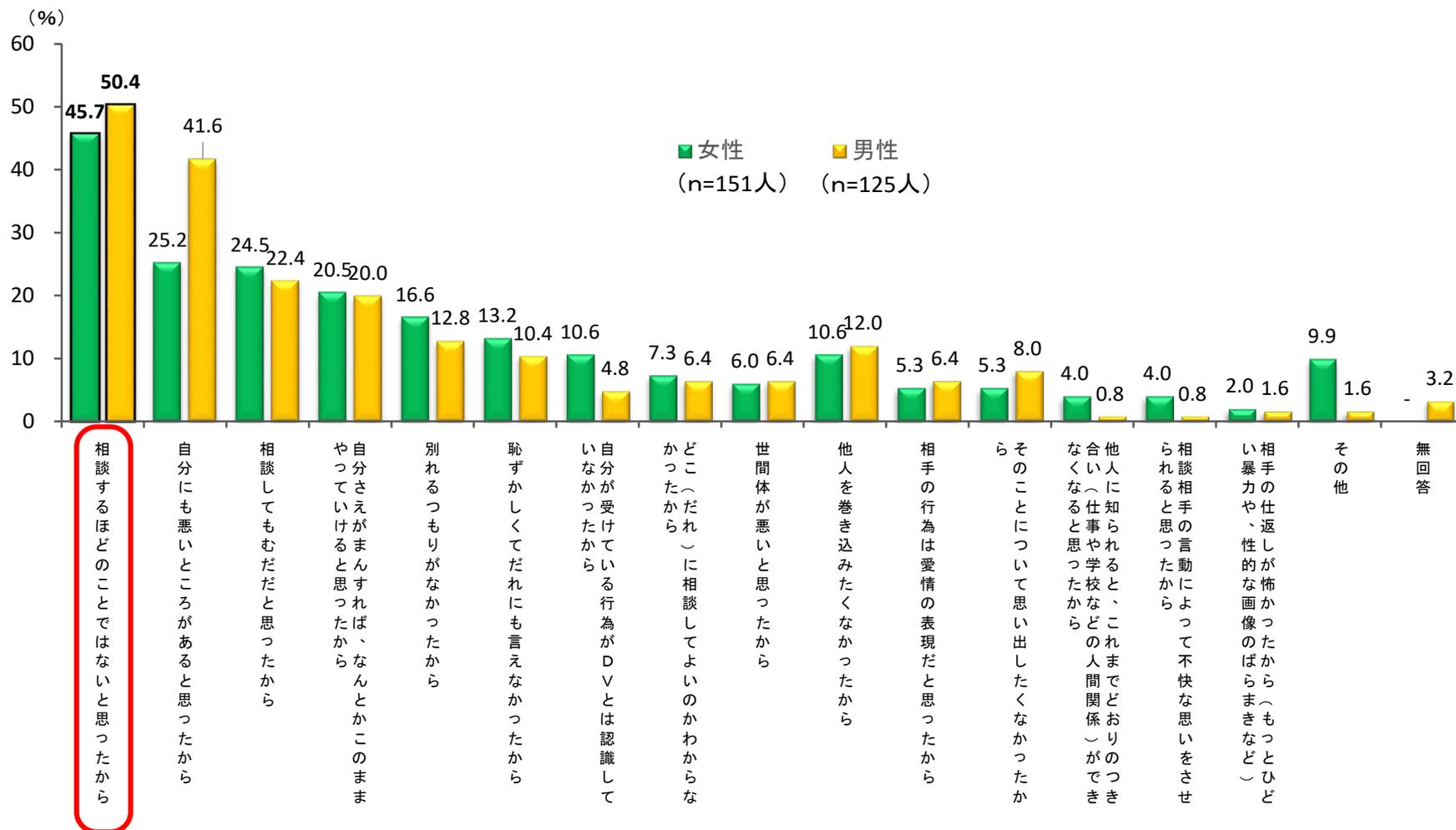


配偶者からの被害の相談先(複数回答)



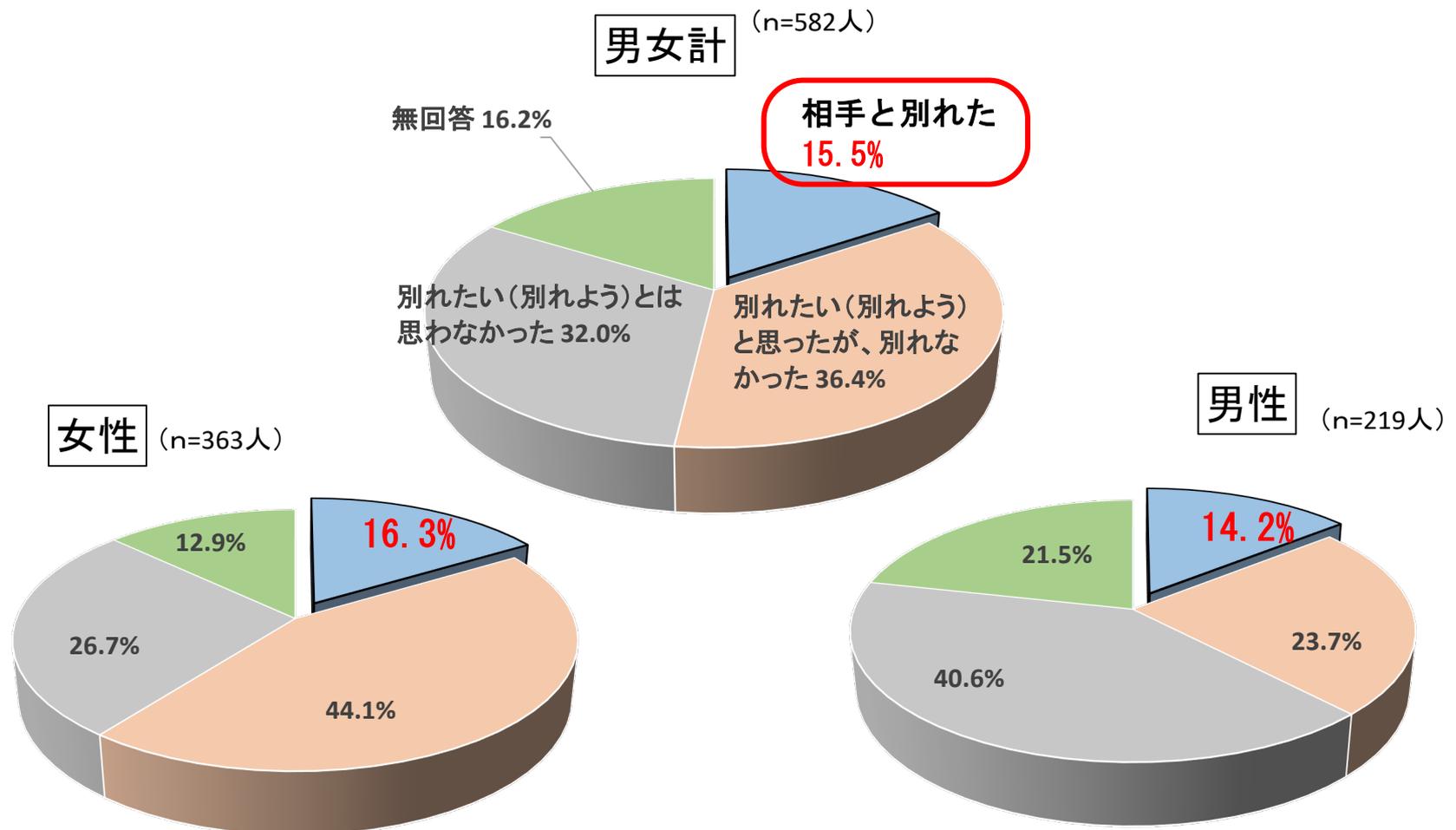
配偶者からの暴力被害を相談しなかった理由(複数回答)

男女とも、相談するほどではないと思ったからが最も多い



配偶者から暴力被害を受けたときの行動

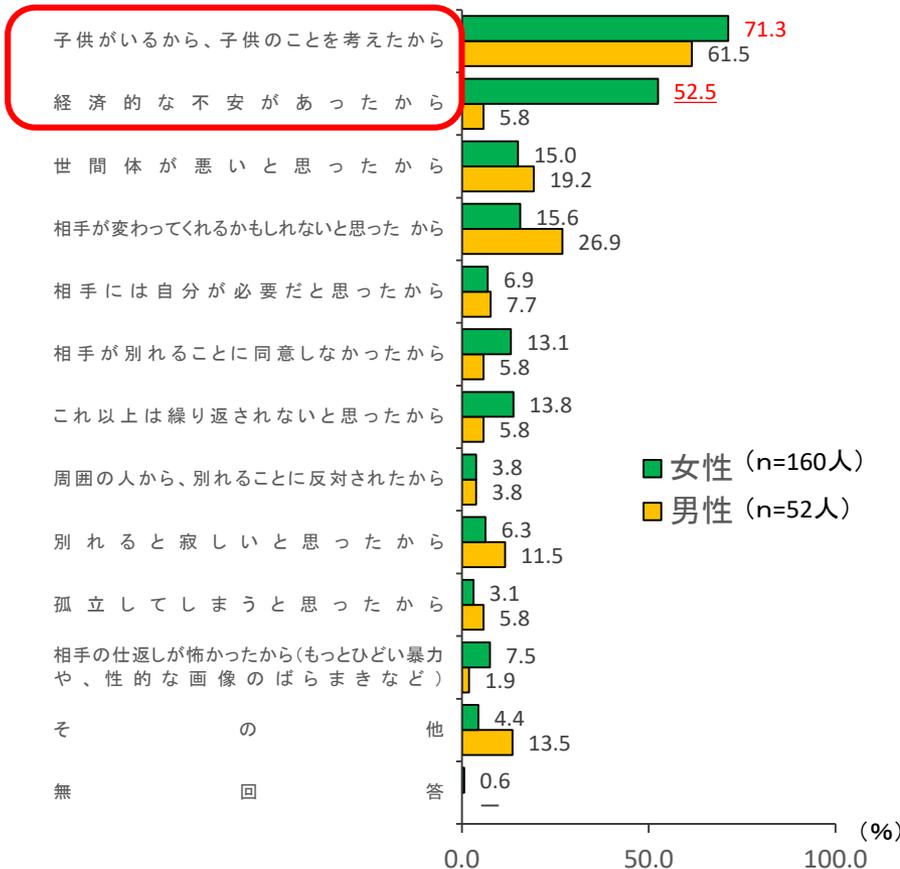
被害を受けた人のうち、相手と別れた人は約2割



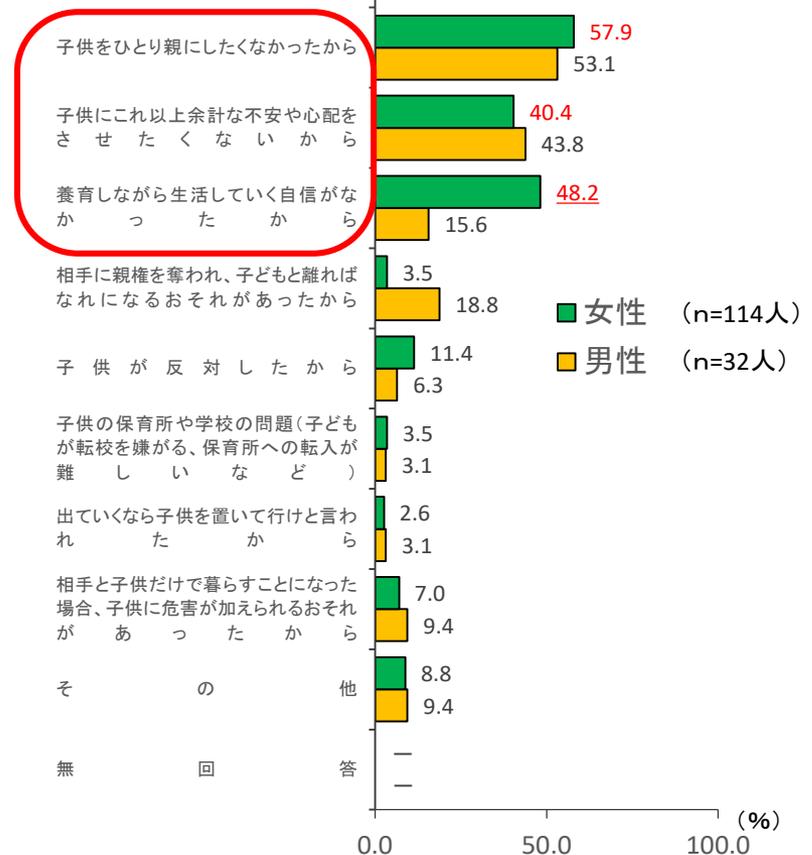
配偶者と別れなかった理由

- ・相手と別れなかった理由で最も多いのは「子供のこと」
- ・その最大の理由は「子供をひとり親にしたくなかったから」
- ・特に女性、「経済的不安」や「養育しながら生活していく自信がなかったから」の割合が高い

配偶者と別れなかった理由(複数回答)



子どもが原因で別れなかった最大の理由(複数回答)

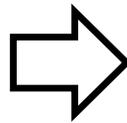


DV相談窓口

【DV相談ナビダイヤル】

はれれば

#8008



最寄りの配偶者暴力相談支援センターに電話

⇒ 電話相談・面談・同行支援・保護等



令和2年4月20日開始

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛、休業等が行われる中、DVの増加・深刻化の懸念を踏まえて実施。

24時間電話相談

つながり はやく

0120-279-889

メール相談

※24時間受付

SNS相談

※毎日12時～22時対応

同行支援

保護

緊急の宿泊提供

WEB面談も実施



soudanplus.jp

外国語相談(SNS相談)にも対応

10言語

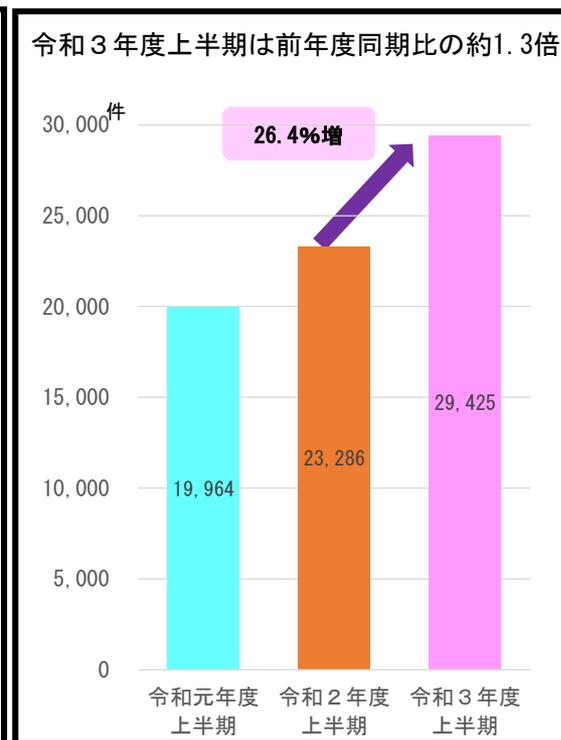
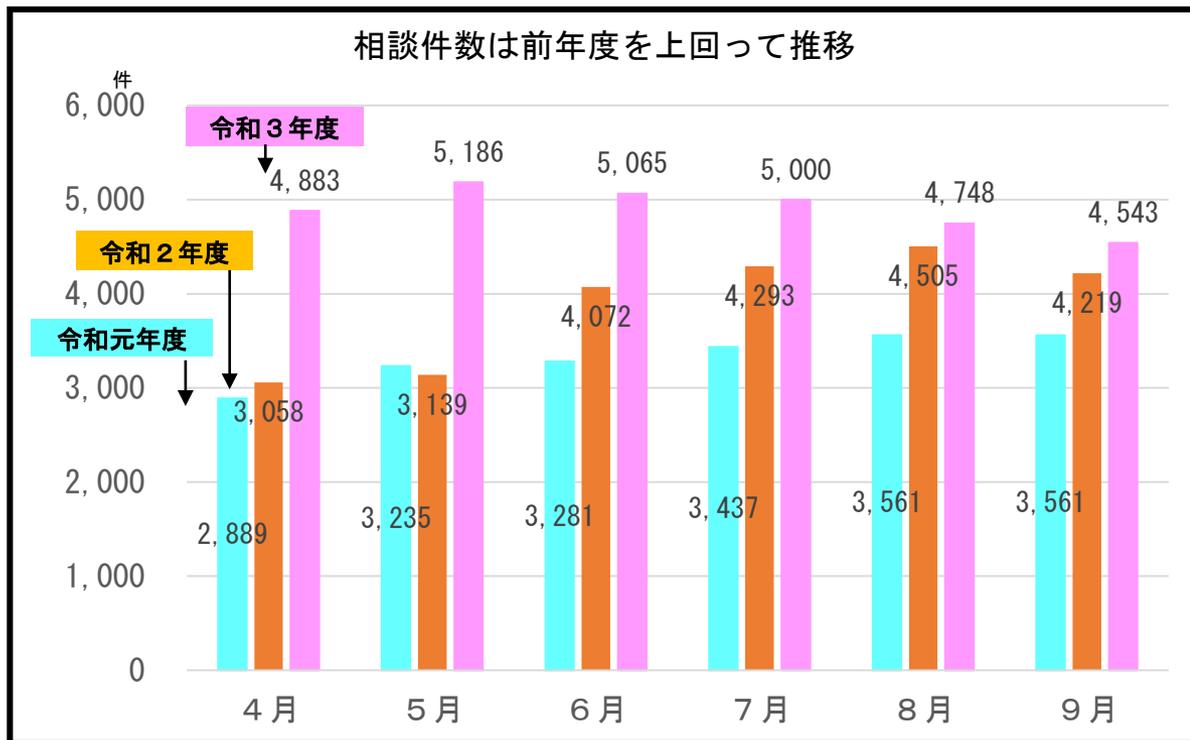
※24時間受付

英、中、韓、スペイン、ポルトガル、タガログ、

タイ、ベトナム、インドネシア、ネパール

性犯罪・性暴力

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの 全国の相談件数の推移（令和3年度上半期）



注：相談件数は、電話・面接・メール・SNS等による相談の合計

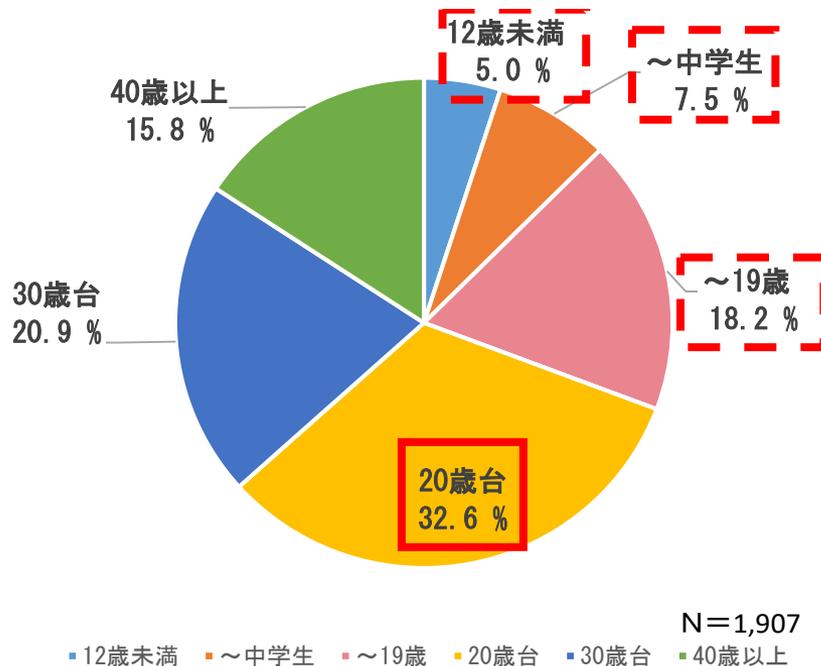
資料出所：内閣府調べ

性犯罪・性暴力被害の相談者の年齢

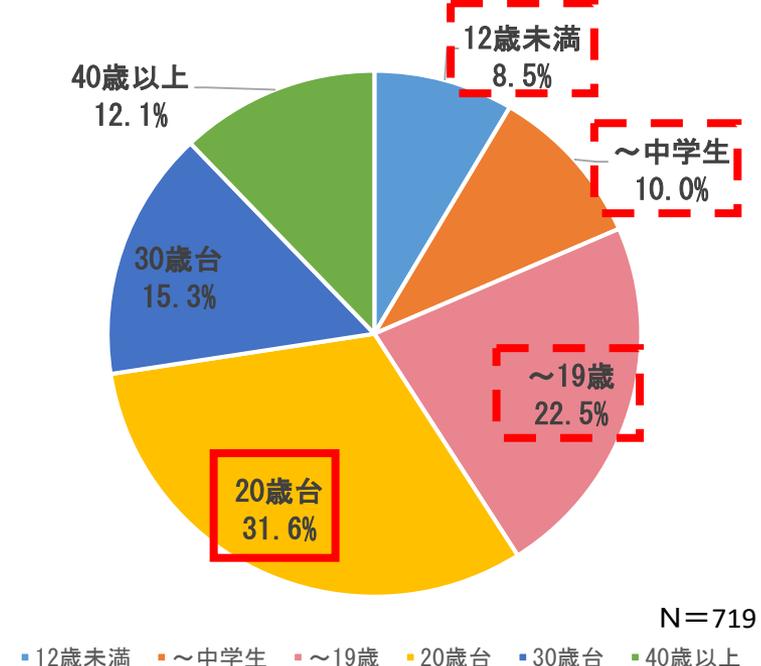
被害者の年齢

電話相談、面談とも、20代以下が約7割

<電話相談>



<面談>



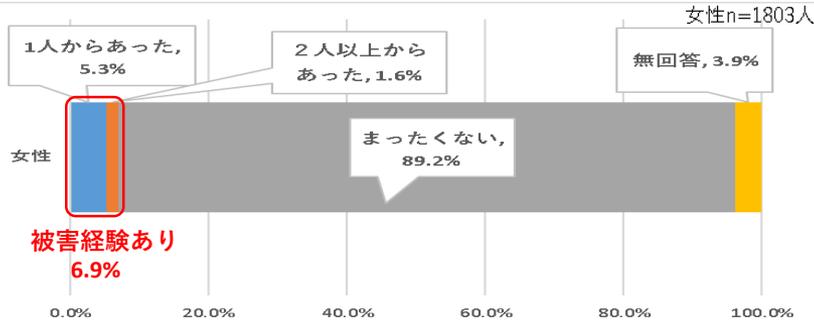
※年代が不明の相談者を除いた場合の割合（令和元年6月～8月）

- ・電話相談では、20歳台が32.6%、面談でも、20歳台が31.6%と最も多い。
- ・面談では、4割以上を10代以下の被害者が占めており、中学生以下に限っても、約2割に上る。

「無理やりに性交等をされた被害経験」について

① 無理やりに性交等をされた被害経験

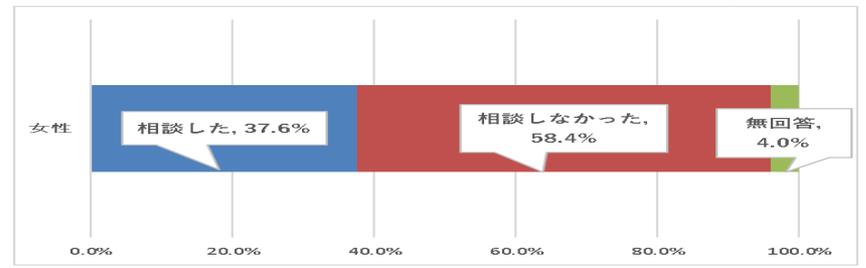
- 女性約14人に1人は無理やりに性交等をされた経験がある。



③ 無理やりに性交等をされた被害の相談経験

- 被害を受けた女性の約6割はどこにも相談していない。

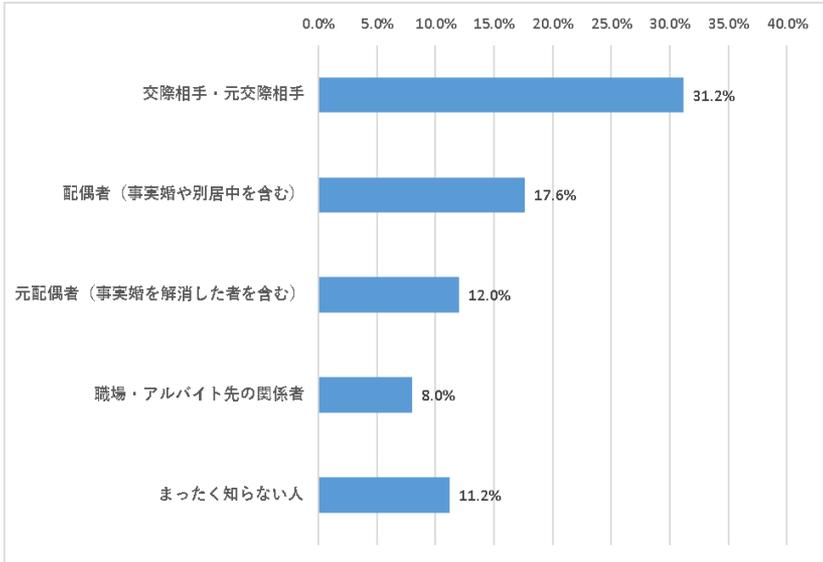
女性n=125人



② 加害者との関係（複数回答）

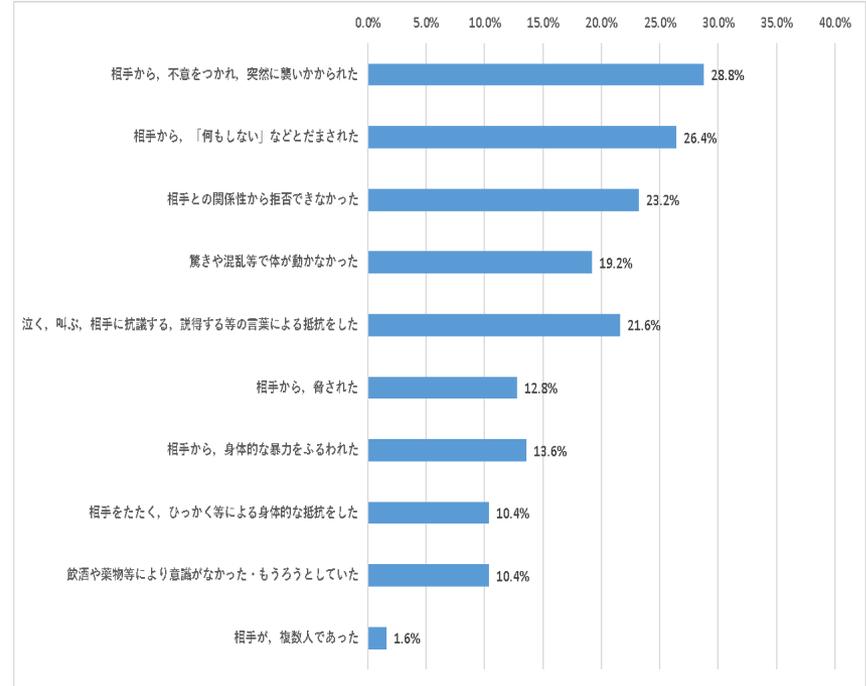
- 女性では「交際相手・元交際相手」が約3割、「まったく知らない人」が約1割。

女性n=125人



④ 被害にあったときの状況（複数回答）

女性n=125人



性犯罪・性暴力被害相談体制の拡充

ワンストップ支援センター 全国共通短縮番号(R2.10/1~)



「#8891」
(はやくワンストップ)

性暴力被害者のための 夜間休日コールセンター(R3.10/1~)

性犯罪・性暴力の夜間の相談や緊急対応のため、これまで夜間休日には対応していないワンストップ支援センターの運営時間外に、被害者からの相談を受け付け、ワンストップ支援センターと連携して、支援を実施

性暴力に関するSNS相談 「キュアタイム」

R2.10/2~
(月・水・土 17時~21時)

☆御相談は24時間365日、書き込み可能です。☆



同意のない性的な行為は
全て性暴力です。

匿名で相談できるSNS相談室
Cure time+



キュアタイム

検索

令和3年度「女性に対する暴力をなくす運動」の主な取組について

政府では、毎年11月12日から11月25日（女性に対する暴力撤廃国際日）までの2週間、関係団体との連携、協力の下、女性に対する暴力の問題に関する取組を一層強化するための広報活動を実施。（平成13年6月5日男女共同参画推進本部決定）

潜在化しやすい女性に対する暴力の問題に対し、社会の意識を喚起するとともに、女性の人権尊重のための意識啓発や教育の充実を図ることにより、暴力を容認しない社会風土を醸成するための啓発を強力に推進する。今年のテーマは「**性暴力を、なくそう**」。

○ 啓発物の作成・配布（ポスター・リーフレット・カード・シール・パープルリボンバッジ）

「性暴力をなくす」という社会の意識の醸成と相談窓口の周知を図る啓発物を全国の自治体、関係機関・団体、公立図書館等に配布。

【ポスター等で伝えたいメッセージ】

- ・ 傷つけた方が悪い。性暴力に言い訳は通らない。
- ・ 望まない性的な行為は、性暴力です。
- ・ 性暴力の悩み、ひとりで悩まず、相談を。



<啓発カード>



<啓発シール>



<令和3年度ポスター・リーフレット>



<描きおろし漫画>

○ 漫画家 西原理恵子さん描きおろし漫画

○ パープル・ライトアップ

全国47都道府県・300か所以上で、ランドマークを女性に対する暴力の根絶のシンボルカラーである紫色へのライトアップを実施予定。

【主な実施予定施設（都内）】

- ・ 迎賓館赤坂離宮 11月12日（金）、13日（土）いずれも16:30～18:30 ※一般公開は18:00まで（最終入場は17:30）
- ・ 東京スカイツリー® 11月12日（金）17:30～22:00

その他実施予定施設はこちら→



○ 全閣僚による運動期間中のパープルリボンバッジの着用

○ 企業との連携

賛同企業による、SNS等での周知や社員のパープルリボンバッジ着用

○ 政府広報との連携

- ・ BS朝日「宇賀なつみの そこ 教えて！」
- ・ Yahoo!バナー広告（11/8～11/14）
- ・ 視覚障害者向け広報

<賛同企業>



<パープルリボンバッジ>

若年層を対象とした性的な暴力の根絶

●若年層の性暴力被害予防月間

【期間】 毎年4月

【目的】

これまでのAV出演強要やJKビジネスなどの問題の更なる啓発に加え、深刻化しているレイプドラッグの問題、酩酊状態に乗じた性的行為の問題、SNS利用に起因する性被害、セクシュアルハラスメント、痴漢等、若年層の様々な性暴力被害の予防啓発や性暴力被害に関する相談先の周知、周りからの声掛けの必要性などの啓発を行い、若年層が性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないことの啓発を徹底する。

【主な実施事項】

- (1) ポスター、リーフレットの作成・配布、テレビ、ラジオ、インターネット等のメディアを利用した広報活動
- (2) 講演会・研修会等を開催し、若年層の性暴力被害予防のための啓発活動を実施
- (3) 被害者相談活動の一層の充実

【今後の予定】

令和4年の月間においては、同年4月からの成年年齢の18歳への引下げを受け、契約に関する注意喚起等、積極的な広報・啓発を実施。



<ポスター・リーフレット>